

アンナプルナ&ダウラギリ展望トレッキング (2)

文と写真 by 根岸

このツアーは、クマさん会メンバーが良く利用している西遊旅行主催で、岡部さんからは、乾季で天候が安定しており、「山」、「星」、「しゃくなげ（石楠花：現地名ラリグラス）」が良く見える 3 月を勧められた。また、6000m級経験者の堀さんからは直前に「3000m台なら高山病は心配ない」、「帰国後にレポートを書け」との激励を頂いた。

ダウラギリは偵察隊を派遣したが断念した。また、ダウラギリは日本山岳会に所属した **S** 社の方が遭難死された山でもあると、出発前夜に熊本さんからお聞きした。

[illegible]

初日は、ポカラを7時にバスで出発し、9時前にナヤプール(1025m)に到着した。9時半からモディー川沿いを歩き、シャウレバザール(1170m)経由し、段々畑を眺めながらガンドルン(1950m)を目指す。6時間の予定。

2日目は、約6時間歩いてタダパニ(2595m)まで進む。

3日目以降は、ツアー初ルートである。



アンナプルナ BC (4130m) やマチャブ
チャレ BC(3700m)まで溯るモディ・コ
ーラ (川) 沿いの道を辿る。



石段の坂道が続く。途中で、制服姿の子
供達とすれ違った。



ACAP(Annapurna Conservation
Area) 発行の保護区入域許可証に判子
を貰う。2000rp(20\$位)、登録が無いと
‘倍付け’の罰金を払わされる。



時折、ジープやバイクが通る道をひたす
ら登る。埃がすごい。
「ビスターリ (Bistaar) = ゆっくり」
と「ナマステ=こんにちわ・さようなら」
のネパール語を覚えた。



木綿の木＝きわたのき（red silk cotton tree）の真っ赤な花が咲き誇っていた。種子に繊毛が詰まっているのがこの名前の謂われ。インド原産



段々畑（棚田）沿いの石畳を登る。時折、祭壇が祀って有るが、中にはお地蔵などは無かった。ネパールには、330 万の神様がいるとガイドブックには書いてあったが、ヒンズー教とチベット仏教が混在している。

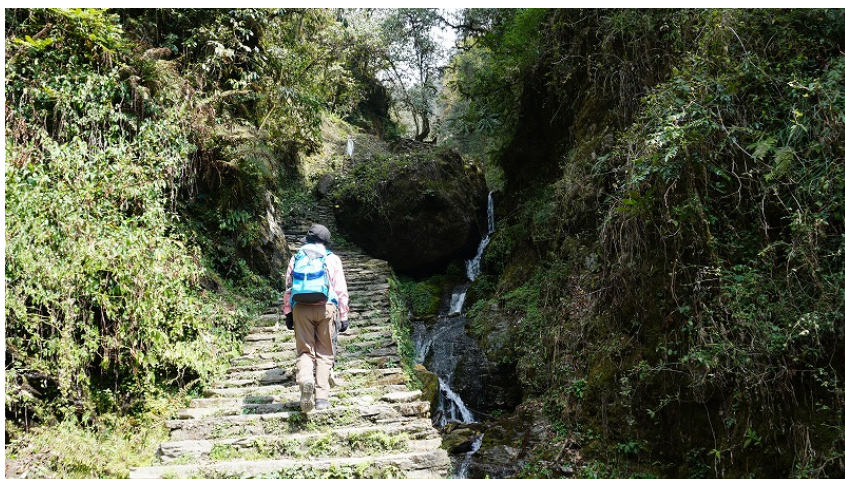


初日は、約 2 時間の昼食や休憩を入れて、17 時半にガンドルン（1950m）のホテルに着いた。合計約 6 時間の歩きだ。部屋に入るとプラスチック製容器にお湯が配られて、顔や体を拭く。夕食は 18 時半、就寝は 20 時半だった。

3 月 21 日（月）：トレッキング 2 日目：



二日目朝は、6 時に起床しお湯を貰って顔を洗い、7 時に荷物出しと食事、8 時出発である。これが定番になった。ガンドレンからタダパニ（2630m）まで約 700m を約 4 時間で登る。マチャプチャレ（6993m 右側）とヒウンチュリ（中）、アンナプルナサウス（7219m）が見えてきた。目指すアンナプルナ I 峰はまだ見えない。



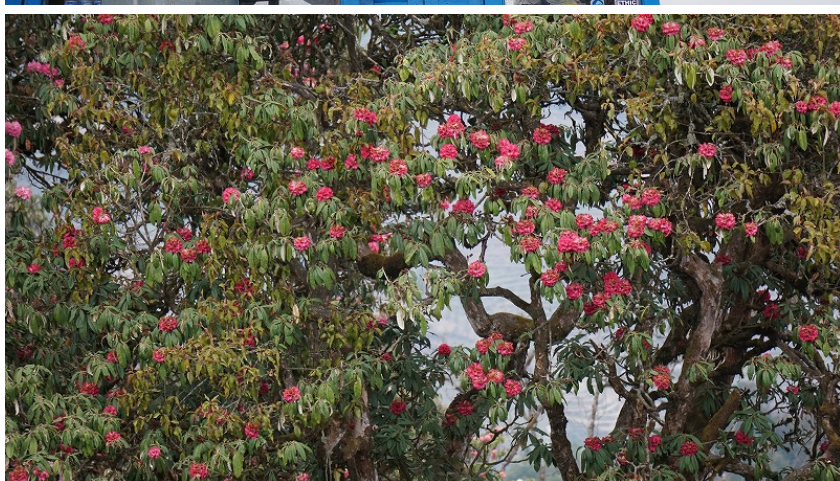
石段のトレッキングルートが続く。気持ちが良い。



2000m を超えると、お目当てのシャクナゲ樹林が見えてきた。



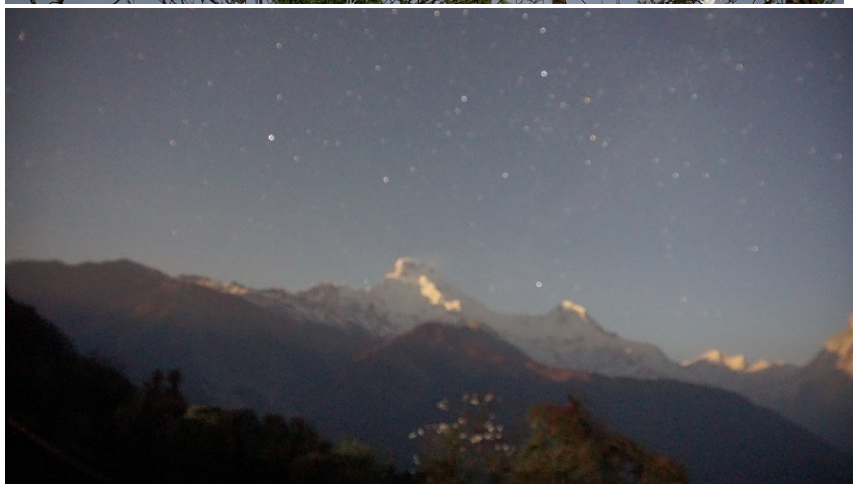
2 日目は、12 時過ぎに宿泊地のホテルに着いた。



昼食後に、荷物を整理し、写真を撮りまくる。シャクナゲの花。



木蓮の白い花が、シャクナゲの赤い色との対比で目立った。



翌朝、4時半に起きて、アンナプルナサウスと星空を撮影した。開放で、シャッタースピード 20 秒で撮影した。

「星が綺麗」と岡部さんに言われていたが、夜間は満月（と雲）が邪魔して良い写真は撮れなかった。



アンナプルナサウスの姿（朝 6 時ごろ：220 mm の望遠で写す）。



3 月 22 日（火）からのトレッキング 3 日目出発前に撮影。

これ以降は、トレッキングコース後半編で記す。

2016 年 4 月 7 日作成